

令和5年度自治会長会議の概要

日 程	場 所	出 席 状 況	出 席 率
5月17日（水） 午後6時30分～ 午後8時10分	文化の杜交流館コモッセ 講堂	自治会長188人中 122人出席	64.9%

令和5年度 自治会長会議

市側出席者

市長、副市長、教育長、総務部長、総務部検査官、市民部長、健康福祉部長、保健医療専門官、産業部長、建設部長、教育部長、議会事務局長、監査委員事務局長、消防長、広域行政組合事務局長、生活環境課員5人、集落支援員2人

自治会長 188 自治会中 122 自治会 出席率64.9%

(八幡平16自治会、尾去沢13自治会、十和田43自治会、花輪50自治会)

(R4年度 188 自治会中 128 自治会 出席率68.1%)

<質疑・意見交換の概要>

1. 自治会長会議連絡事項について

[総務部]

質疑なし

[市民部]

Q. 自治会長

地域づくりミーティングでの話し合いは、市民の根っこの話題で市民部だけでなく、他の部に関わるものも出ている。庁内では連携して課題に取り組んでいることと思うが、他の部からも参加いただき、生の声を知ってもらいたいが、市民部だけでなく他の部からの参加も可能かどうかききたい。

A. 市民部長

地域づくりミーティングはいろいろな悩み等を出し合う場となっている。概要については、庁内でも共有している。今年度は2年目となり、1年目の課題をどう解決していくのかということになり、話し合いが進んでいく中で、地域で出来ることや行政と一緒に取り組むことなどが出てくることと思うので、その際は庁内連携していく。まずは、多くの市民の方から地域づくりミーティングに参加いただきたい。

Q. 自治会長

空き家の適正管理について、当自治会でも空き家が増えており、毎年起きる問題が、道路に面している空き家の落雪が道路を塞いでいるが対処できないという事態。市にお願いをし、調査確認してもらったが、所有者の特定をしなければならないという回答があり、所有者が特定されたが、所有者の対応がない状況で進まない。今後状況が悪くなるのが危惧される。この問題はどこでも発生していく案件だと思うが、どう考えているか。

A. 市民部長

道路に面している空き家からの落雪で、交通阻害となる状況は増えるものと思っているが、相談があれば市で調査確認をし、所有者の特定をして指導しているところ。条件が揃わなければそれ以上の措置が出来ないので、所有者にお願いしている現状。大変もどかしい思いをしているが、これは全国共通。国において条件緩和する法改正の動きがあり、条件緩和されれば今よりはスムーズに対応できるものとするが、今現在は、所有者に対しお願いや指導していく方法しかないことをご理解いただきたい。今後も情報収集に努め、対応していきたい。

〔健康福祉部〕

Q. 自治会長

資料6の「5月7日まで」の欄に「新型インフルエンザ等」と記載があるが、「季節性インフルエンザ」の誤りではないか。

A. 保健医療専門官

感染症法上では、コロナは「新型インフルエンザ等感染症」という分類名となる。

〔産業部〕

Q. 自治会長

地域の農業を話し合う「地域計画」についてであるが、当自治会の会員は田んぼは持っているが、耕作は他の団体をお願いしている状況。私自身は非農家で、こういう自治会が市内にもあると思うが。この話し合いの参加者は農家集落だけなのか、それともそれ以外でも参加可能なのか。私は是非参加させていただきたいが、いかがか。

A. 産業部長

この話し合いは「旧：人・農地プラン」を基本として開催したいと考えており、すでに23地区が計画を策定しており、その方々を集めて地区単位ごとに説明会を開催していきたいと考えている。具体的な参集地区や参集者などは、これから地域と相談しながら設定して進めていきたい。

Q. 自治会長

熊による被害防止について、今の印象だと手ぬるいと感じる。当自治会は各家の前が熊の散歩コースのようで毎日見ている人もいる。地区ごとに山狩りみたいな熊を駆除する方向にもっていったらえられないのか。

A. 産業部長

今の方法としては、熊を目撃した場合は通報していただくこととしているが、目撃した場合、通報はしていただいているか。

Q. 自治会長

例えば、通報したとしても警察が「熊が出ています。注意してください」というパトロールのみ。何の意味があるのか。

A. 産業部長

被害が起きないようにパトカーの巡視等を行っているが、根治的な対策について、人家があるところについてはいろいろと対策を考えていかなければならないと思っているので、今後、猟友会と相談しながら対策について考えていきたいと思う。

A. 関市長

私が市長就任時は、本市の熊の駆除数は60頭で、県の駆除計画では全県で800頭であつたが、実際駆除されていた数は500頭で、毎年300頭の駆除漏れがあり、年々増えていく一方だった。そのため非常に熊の被害が多いということで県にお願いをして、県の計画を1200頭に増やし、鹿角の駆除数も60頭から75頭に増やしてもらった。熊の駆除については猟友会と相談しながら、また、オリの設置などもあるので、皆さんから協力をいただきながら、対策を進めていきたいと考えている。

[建設部]

質疑なし

[教育委員会]

質疑なし

[消防本部]

Q. 自治会長

救急や火災の出動報告がありましたが、当自治会もたびたびお世話になっている。この先人口減となっていく中で搬送件数は多くなる。当自治会では3分の2が高齢者で、老々の状態の中、救急搬送される前に高齢者同士で支え合える対策を考えられているのかどうか。要支援避難者計画は立てているが、それ以外の部分で何か対策を立てられているのか伺いたい。

A. 消防長

消防本部としては、応急手当講習会等について随時受付をし、日程調整しながら行っている。地域でできることを各地区と模索しながら対応していきたいと考えている。

Q. 自治会長

従来どおりの取組みにも、今まで以上に自治会でも参加するよう呼び掛けていくが、何か新しいものを後日提案してもらえれば、参加できるものは参加していきたいと思うので、よろしくお願いします。

A. 消防長

あんしん長寿課・総務課とも相談しながら検討していきたい。

また、ドクターヘリを北東北3県で連携して実施しており、急病等の緊急性の高い搬送についてはすぐ要請など行っているの、通常の搬送と合わせて今後も対応していきたい。

2. 意見交換

Q. 自治会長

- ①私は自治会の会長であって、自治会長ではない。他はどのようなのか。
- ②自治会長という名称はどのように決められているのか。条例等で定められているのか。
- ③表記について、15 ページの図では会長という表記、名簿では自治会長という表記になっておりあいまいだが、どっちを使うのか。

A. 市民部長

自治会や町内会等のほとんどが、その規約や会則では会長を置くということになっているかと思う。そういう意味では会長だと思う。定義については、自治会や町内会等名称はいろいろあるかと思うが、その組織がどういうものかという、地域の一定の範囲で集まって、地域をよくしていこう、助け合っていこうという組織のこと。その長を便宜的に自治会長と総称しているが、表記については修正について精査する。自治会でも町内会でも一般的に許容範囲と考える。

Q. 自治会長

事前質問の異動世帯の知らせについて、増1、減1という知らせになるのが答えなのか。

当自治会内では、新築されればそのあと加入したいとあいさつに来られるのに、市からは増1という知らせしかこない。おかしくないか。

A. 市民部長

市からのお知らせは、世帯等の異動があった場合に異動数の連絡と、同意を得た方のみ別添で名簿を添付し連絡している。そのため、異動があっても名簿がないところに関しては、同意を得られなかったということでご理解いただきたい。

○市長より

- ① 鹿角市ではゼロカーボン2030ということで、いろいろな取り組みをしており、トイレの電気をLEDに替えていくなど、効率化等を図っている。現在、再生エネルギーである太陽光エネルギーを主に使いながらゼロカーボンに向けていくということで、国全体の補助金とかいろいろな事業採択があるのだが、各自治会の近くにも施設を設置することを考えており、その時は自治会の了承を得て設置していくこととなる。

現段階では予算要求前のことではあるが、具体的に決まり次第自治会に個別に相談し

ながら進めていく。その場合には、地域の電気料金など考慮しながら設置していくこととなる。鹿角市の地域全体の電気料金が下がるように計画を考えているところ。

これについては、概要が決まっておらず国の採択にもよるので、決まり次第説明する。

② 産婦人科問題や医療の充実を公約として、産科の再開としていくこととしておりましたが、就任時には精神科医がいなくなるということで、精神科医の確保もしていくこととなった。医療体制の中でも整形外科医も足りない状況で、労災病院へもお願いをしている。

出産については、大館に集約化しているが、大館市立病院も厳しい状況にあり、派遣いただいている弘前大学病院へ鹿角市の厳しい状況を説明することが大事であるという助言をいただき、何度かお願いに出向いている。

産婦人科医が足りなくなった理由は、福島県大熊町の産婦人科で起きた事故が事件となり、産婦人科医の成り手が不足したことが大きな要因となっている。原因は出産までに妊婦健診を一度も受けていなかったこと。出産までに健康状態や余病等がないかなど出産までの状態確認のための健診が大事だということで、現在厚生病院には県内外の関係医療機関からの協力で、医師を2名から段階的に4名に増やしていただいている。

また、出産後の対応として、耳鼻咽喉科等の他科を含めた小児科の開業に対し支援している。

医療体制の強化に向けては県にもお願いしており、副知事や小坂町長とともに岩手医科大学にも支援のお願いに伺い、関係する医局へもあいさつに出向いてきた。

個人情報等含んでいたり説明できないこともあります、マイナス百の状態からゼロまで引きあげ、維持している状況。市からは毎年厚生病院へ補助金を交付し、医者 of 確保事業や機器の更新等を行い、厚生病院を支えている。今後とも医師会と協力しながらマイナスにならないようにしていきたいと思うので、よろしくお願い申し上げます。

[閉会]